

**令和7年度**  
**社会福祉法人ファミリーケアサービス**  
**事業報告**

## 目次

### 事業報告

社会福祉法人ファミリーケアサービス	…p3
すこやか横手	…p3 ~ p4
特別養護老人ホームすこやか横手	
ショートステイすこやか横手(介護予防)	
ケアハウスすこやか横手	
老人介護支援センターすこやか横手	
すこやか横手居宅介護支援センター	
デイサービスセンターすこやか横手(第1号通所)	
すこやか大雄	…p4 ~ p5
特別養護老人ホームすこやか大雄	
ショートステイすこやか大雄(介護予防)	
老人介護支援センターすこやか大雄	
居宅介護支援事業所すこやか大雄	
すこやか森の家	…p5 ~ p7
特別養護老人ホームすこやか森の家	
ショートステイすこやか森の家(介護予防)	
デイサービスセンターすこやか森の家(第1号通所)	
シルバードームいきいきの郷	…p7 ~ p8
特別養護老人ホームシルバードームいきいきの郷	
ショートステイシルバードームいきいきの郷(介護予防)	
デイサービスセンターシルバードームいきいきの郷(第1号通所)	
増田町居宅介護支援事業所	
増田町在宅介護支援センター	
すこやか館合	…p8 ~ p9
特別養護老人ホームすこやか館合	
ショートステイすこやか館合(介護予防)	
小規模多機能型居宅介護事業所すこやか館合(介護予防)	
児童発達支援事業「モモの家」	…p9
県南愛児園ドリームハウス	…p9
横手市サンハイム	…p9 ~ p10
障害者支援施設「ひまわり社」	…p10

## 事業報告(統計資料)

すこやか横手	…p12 ~ p14
すこやか大雄	…p15 ~ p17
すこやか森の家	…p17 ~ p19
シルバードームいきいきの郷	…p19 ~ p21
すこやか館合	…p22 ~ p23
児童発達支援事業「モモの家」	…p24
県南愛児園ドリームハウス	…p24 ~ p25
横手市サンハイム	p25
障害者支援施設「ひまわり社」	…p26

# 令和7年度社会福祉法人ファミリーケアサービス事業報告

## 1. 社会福祉法人ファミリーケアサービス

本年度は、適切な予算執行と収支バランスの確保に努めたが、物価高騰や人件費の上昇に加え、感染症の影響による利用率の低下もあり、厳しい経営環境となった。利用率向上に向けた取組やコスト意識の醸成を進め、一定の成果は見られたものの、引き続き安定的な経営基盤の確立が課題である。

人材面では、秋田県介護サービス事業所認定評価制度を踏まえ、働きやすい環境づくりや研修体制の充実に取り組み、職員の定着と育成に努めた。運営理念の再確認を図りながら、専門性の向上とサービスの質の確保にも継続して取り組んだ。

平成15年から運営受託してきた「母子生活支援施設横手市サンハイム」は、時代の流れと利用者ニーズの変化により、令和8年3月31日をもって閉所することになったが、その役割を「ひとり親家庭等生活支援事業所さんのあ」へと引き継ぐことができた。

また、障害福祉サービスについては、旧愛児園を改築し「ひだまりてらす」として集約のうえ開設し、これまでそれぞれの事業で培ってきた経験を活かしながら、地域福祉の拠点としての機能を強化しスタートすることができた。

## 2. 特別養護老人ホームすこやか横手

新型コロナウイルスの集団発生等はなく経過し、家族の面会や入居者の意向に沿った外出行事も積極的に行えた。一方で職員育成には課題があり、研修体系の見直しや人材が育ちやすい職場環境作り等、今後も検討を重ねる必要がある。

提供目標と実績

目標 年間延べ17,338人(47.5人/日 稼働率95.0%)

実績 年間延べ16,905人(46.3人/日 稼働率92.4%)

<要因>

入院率は低かったが、退所件数13件あり、入居者を調整するまでに平均1か月以上の日数を要したことが、稼働低下の要因となった。

## 3. ショートステイすこやか横手(介護予防)

年度初めに越冬利用者の退所や長期利用者の入所決定による退所により大きく稼働を落とし、新規利用者を年間で32名調整したが、週末の利用希望が多く平日の利用を円滑に利用調整できなかった。尚、8月末に新型コロナウイルス感染症に利用者6名罹患も、早急な対応により9月3日には通常通りに稼働できている。接遇面で家族より苦情があり、適切な言葉遣いや振る舞いを徹底するよう周知している。

提供目標と実績

目標 年間延べ6,570人(18.0人/日 稼働率90.0%)

実績 年間延べ4,544人(12.5人/日 稼働率62.1%)

<要因>

定期長期利用者の施設入所や越冬利用者の退所後の入所調整が円滑に行えなかった。また、週末の利用希望者が多く平日に空床が多くなった。

## 4. ケアハウスすこやか横手

入退きの状況は、入居5名、退居6名。入居は全て自宅からで、家族と同居2名、独居3名、退居は身体状況の変化で入院継続が5名、脳梗塞で急逝が1名となった。入居者の中に少しずつADLやIADLが低下している方もおり、家族やケアマネと情報共有をし、状況に応じた対応を提案する等の支援も行った。住環境設備について突発的な修繕が多くあり、今後は設備の経年劣化を鑑み、中長期の修繕計画を策定し補修を行う必要がある。

## 5. 老人介護支援センターすこやか横手

地域住民から寄せられる相談は、日常的な介護相談に加え、精神疾患を背景とした8050問題や虐待事案等もあり、関係機関と連携しながら重層的な支援体制を構築し対応を行った。また地域包括支援センターとの年3回

の定期連絡会では情報交換や事例検討を実施し、困難事例への対応力と連携の質を高めた。

## 6. すこやか横手居宅介護支援センター

前年度より義務化された虐待防止・BCP・感染症対策の義務化項目に対して、委員会運営と研修を通じて組織的な対応力を強化した。また各種外部研修で得た専門的な知識をケアマネジメントの現場に還元し、利用者の尊厳を守り生活を支える支援の向上に努めた。

提供目標と実績

目標：介護給付 125.0件/月

実績：介護給付 89.0件/月

<要因>

4名から3名への体制縮小に加え、短期間に膨大な調整を要しながら早期終結となる事例や要支援の新規利用者の増加等の様々な要因により、個々の担当件数が目標を下回った。

## 7. デイサービスセンターすこやか横手（第1号通所）

新規32件、廃止27件と利用者の出入りが多い中、情報共有や個別援助の統一等、連携を図りながら対応を行った。利用者の増加に伴い、レク活動の準備・片付け等に時間を要したことや、利用受け入れの窓口を担当職員1名で行っており、今後に向けて人材育成も進める必要が課題として挙げられる。

提供目標と実績（定員18名）

目標 年間延べ 4,492人（14.4人/日 利用率80.0%）

実績 年間延べ 4,653人（14.9人/日 利用率82.3%）

<要因>

レク活動の充実を図れるよう毎月色々なアイデアをだしながら企画・実施したことや、利用回数増加希望の利用者に対し積極的な受け入れ調整を行い、入院等にて空きが出た場合は、スポット利用の受け入れも行った結果、目標達成に至った。

## 8. 特別養護老人ホームすこやか大雄

施設内で3月に新型コロナウイルスの集団感染が発生したが、感染拡大防止策の徹底により、感染を最小限に留め、重症化される方もおらず早期終息することができた。職員・家族の感染症罹患に伴う欠勤や職員の体調不良、退職等で職員体制が整わない中でも、ユニット・職種間での協力や見守りシステムの導入・運用により、できる限りサービス計画に沿ったケアを実施し、梵天行事等季節に合わせた新たな活動や、オンラインリハの導入・実施に努めた。感染対策等でご入居者の楽しみが減っている中、楽しみや気分転換に繋げられる新たな取り組みにも意識的に取り組めたことは評価できる。新たな加算算定の取り組みについては、R8年4月からの科学的介護推進体制加算の算定に向け準備を進めた。

今年度は前年に比べ入院者や長期入院中の退所（療養型病棟移行）される方が少なかった一方、ご入居者の高齢化等により施設でお看取りとなるケースが多かった。退所者19名の内、10名の方が施設での看取りとなっている。

提供目標と実績（定員50名）

目標 年間延べ17,338名（47.5名 利用率 95.0%）

実績 年間延べ17,106名（46.9名 利用率 93.5%）

<要因>

新規入居調整において、昨年度に比べ選定日数は短縮されたが、入居者の選定に時間を要し、空床期間が長期となったことが主な要因となり、利用率が目標を下回った。

## 9. ショートステイすこやか大雄（介護予防）

今年度、施設内での新型コロナウイルスの集団感染があり、3月4日～3月16日までショートステイの受け入れを休止せざるを得ない状況があった。今後も体調や状態観察を継続し、状態変化等があった際には、職員間において報連相を行ない感染拡大防止や個々に適したサービス提供に努めていく。余暇活動として、体操への参加、塗り絵制作、ユニット調理等を行ない、他者との交流の場や楽しみの持てる時間を利用者様へ提供することができた。

職員相互に、利用者に対して、不適切と思われる言葉遣いや態度について、確認し合う場面もあった。利用者様

へ心地よく過ごして頂く為に職員間での接遇マナー向上について引き続き課題としていく。

大きな怪我などに至るケースはなかったが、転倒事故も継続して発生している。見守り介護ロボット（a a m s）の有効活用や利用者様の状態を見極めた対応を継続する必要がある。

提供目標と実績（定員10名）

目標 年間延べ3,650名（10.0名 利用率100.0%）

実績 年間延べ3,067名（8.4名 利用率83.8%）

<要因>

コロナ感染、体調不良、施設入所等による利用中止が多く、新規利用の問い合わせの依頼が少ない月もあり、稼働率が目標より下回ってしまった。

## 10. 老人介護支援センターすこやか大雄

西部地区の介護相談窓口として介護サービス利用や施設入所の相談に対して併設する居宅介護支援事業所や各関係機関と連携し対応を行なった。地域ケア会議や小ネットワーク会議へも継続して参加、地域の現状・課題、必要とされる社会資源の把握に努めた。包括・在介情報交換会にも出席、相談状況や支援実績の情報共有を図り課題における支援の在り方について検討している。

活動実績 内容 大雄地区ケア会議出席（6、7、8月）

大雄地区小ネットワーク会議出席（大雄地区21ヶ所実施 / 8ヶ所へ出席）

包括・在宅介護支援センター情報交換会出席（7、11月）

相談実績 相談件数：11件

## 11. 居宅介護支援事業所すこやか大雄

事業所移転後5年経過、介護保険認定申請やサービス利用、施設入所の相談件数も増え西部地区の介護相談窓口として認知されるようになった。

長年の採用活動が実を結び令和8年1月付で介護支援専門員が1名増員、3月1日付「特定事業所加算Ⅲ」受理となり算定開始となっている。

各種研修会への参加や地域ケア会議での事例発表により、配属されている介護支援専門員の専門的知識・技術習得等の資質向上も図ることができた。

提供目標と実績

目標 介護給付管理 月間82.5件（予防含む）

実績 介護給付管理 月間63.9件 介護予防支援計画 月間4.2件

<要因>

令和8年1月付で介護支援専門員3名体制となり、新規利用者の獲得と相談支援を行ってきたが月間目標件数を達成できなかった。居宅との契約後に特別養護老人ホーム等の施設入所及び、状態悪化や長期入院により実績に結びつかない、担当期間が短いケースが今年度も多くあった。

## 12. 特別養護老人ホームすこやか森の家

令和7年度の目標利用率は95%であったが、実績としては91.2%と目標を下回ってしまった。施設において看取った方6名、入院中に亡くなられた方4名、計10名の退所者に対し、新規入所者は11名だったが、入所者確定の調整に期間を要してしまい、空床率が4.53%と目標予定の1.5%に対し3.03%の開きが生じてしまった。8月、9月には肺炎等による入院者が増加、嘱託医の治療方針も入院治療を優先されるため、入院率が4.02%と上昇している。

入所調整に関しては、随時申込者の面談を行っているが、入所申し込み者の減少に加え、ユニット型個室の利用料金の説明をした際に断念される方、現在利用しているSSや有料老人ホーム等慣れた環境で継続して過ごしたいと望む方も多く、入所候補者の選考、決定まで時間を要している。空床期間の短縮を図るため、入所申込者を整理し、ユニット型特養希望の候補者を確定した中で選定を円滑に行っていく必要があると感じた。

感染対策においてはコロナ禍同様の対応を継続しているが、10月～11月、2月～3月にかけて、職員と利用者者に新型コロナウイルスの陽性者が出ており、発生から1か月にわたり事前面談等の訪問を控えることとなった。コロナウイルス感染終息後には、ユニット型個室の利点を活用し、時間制限をもうけながらではあるが家族面会の場として居室へお通しすることで、ご入居者、ご家族とも大変喜ばれ精神面でも良い影響が出ている。今後は、嘱託医に助言をもらいながら、できる範囲で外出や外泊も予定していく等、楽しみのある生活へ繋げられるよう

支援をしていきたい。

提供目標と実績（定員30名）

目標 年間延べ10,402人（28.5人/日 利用率95%）

実績 年間延べ10,015人（27.4人/日 利用率91.2%）

<要因>

- ・誤嚥性肺炎等による入院率が高かった。
- ・新型コロナウイルス感染症発生により、面談も含め入所調整の中断期間があった。
- ・入所日間に、利用中の有料老人ホームで新型コロナウイルス感染症が発生し入所が1か月程遅れてしまった。
- ・Drによる診断書、紹介状作成に時間を要した。
- ・入所確定後、嘱託医の意向により専門の医院に診療を依頼したため（専門外であり炎症原因を確定したいと保留期間があった。

### 1.3. ショートステイすこやか森の家（介護予防）

令和7年度の平均稼働率は73.08%と前年度と比較し、徐々に上昇してきているが、目標稼働からは大きな差が出てしまう結果となった。主な要因としては、長期利用者の退所（特養入所や逝去等）の件数が多かったこと、コロナの感染発生に伴い利用調整しなければいけなかったこと、上半期に新規の受け入れ等が積極的にできなかったこと等が上げられる。

新規利用者に関しては、下半期にかけ新規の受け入れを積極的に行い、昨年より11名ほど多くご契約頂いている。次年度も、引き続き積極的に受け入れる体制を整えていく必要がある。

年間行事に関しては、あまり外出行事はできなかった。また、職員体制が整わず、特に上半期は、室内でのレクリエーションの実施も少なかった。下半期には、歌や紙芝居、体操等のレクリエーションを実施し楽しんで頂けるようになった。今年度介護度1～2のご利用者が多かった為、次年度も余暇活動を積極的に取り入れていきたい。

遠方の方の受け入れも行なっている事から、送迎に時間を要する事も増えてきている。希望に沿い受け入れは継続しつつ、1回の利用日数を相談し、調整等も行いながらご利用につなげていきたい。

提供目標と実績（定員20名）

目標 年間延べ6,570人（18.0人/日 利用率90.0%）

実績 年間延べ5,331人（14.6人/日 利用率72.8%）

<要因>

- ・長期利用者の施設入所や逝去が目立った。
- ・新型コロナウイルスの影響により受け入れ制限。
- ・上半期の迅速な新規のご利用者の調整が出来ず、上半期に稼働を伸ばす事ができなかった。

### 1.4. デイサービスセンターすこやか森の家（第1号通所）

令和7年度の年間稼働率は38.9%と前年度よりもさらに2.4%低下している。新規利用者の受け入れは28名、利用廃止者25名、長期休止者3名程度となっている。利用廃止の理由のほとんどは死亡によるものか、ロングショートステイを含む施設入所となっている。

稼働率が低い一番大きな理由としては、新規利用者の獲得不足があげられる。ケアマネージャーへの営業活動の不足や『デイサービスセンターすこやか森の家』としての強みをアピールできていないことが、新規利用者を獲得できていないことにつながっていると考えられる。

当事業所の強みについては、今年度から日曜日を定休日にしたことで、他のポイントを事業所の強みにしていく必要がある。定休日を設けて日曜日以外の職員体制を充実させたことにより、『送迎範囲の拡大』『重度者の受け入れ』『ひとりひとりの利用者への手厚い介護』などに力を入れて強みにしていく必要があると考えられるため、多職種で協力して取り組んでいきたいと思う。

今年度は残念ながら2月中旬から3月初旬に新型コロナウイルスの集団感染がデイサービス内で発生し、利用者8名、職員3名の感染者が出た。デイサービスの営業を5日間停止し、営業した日も利用控えがみられ数名の利用しかなかった日が続いた。手洗い、換気などの基本的な感染対策の意識を職員間で再確認し、今後の集団発生を防いでいきたい。

提供目標と実績（定員25名）

目標 年間延べ 5,024人（13.8人/日 利用率55.0%）

実績 年間延べ 3, 513人 (9. 6人/日 利用率38. 4%)

<要因>

- ・新規利用者の受け入れが足りない、ケアマネージャーからの依頼が少ない。
- ・ケアマネージャーへの営業活動の不足と事業所としての強みのアピール不足。
- ・コロナウイルス感染症の集団感染の発生。

### 15. 特別養護老人ホームシルバードームいきいきの郷

利用者の多様なニーズに寄り添い、「いきいき」とした生活の実現に向け、良質なサービスの提供に努めた。担当職員を中心に、個々の状態把握に基づく支援方法の検討や細やかな対応に創意工夫が見られた点は評価できる。

一方で、職員間で支援のばらつきが見られることから、統一した支援体制の確立が課題であり、次年度の改善事項とする。入居調整については、関係機関からの要請に迅速かつ丁寧に対応したが、2月から約1か月間、感染症の発生により受け入れを制限した。今後は各種感染症への対応力強化が必要である。

提供目標と実績 (定員50名)

目標 年間延べ17, 337人 (47. 5人/日 利用率95. 0%)

実績 年間延べ17, 524人 (48. 0人/日 利用率95. 8%)

<要因>

稼働率は感染症の影響を受けつつも年間目標を達成した。次年度も感染状況を踏まえつつ、積極的な受け入れを推進する。

### 16. ショートステイシルバードームいきいきの郷 (介護予防)

4月から1月にかけては概ね順調に推移し、一部の急なキャンセルが発生した月を除き、稼働率は概ね85%以上を維持した。

一方、2月・3月はRSウイルス感染症の発生により約1か月間受け入れを中止し、その後の調整にも時間を要したことから、稼働率が大きく低下した。

新規契約者は18名、終了者は14名であった。初回利用に留まるケースや長期利用者の退去も見られたことから、新規利用者の定着促進と継続利用に向けた関係構築が次年度の重点課題である。

提供目標と実績 (定員11人)

目標 年間延べ3, 615人 (9. 9人/日 利用率90. 0%)

実績 年間延べ3, 368人 (9. 2人/日 利用率83. 7%)

<要因>

長期利用の方で入院や体調不良によりキャンセルが多く、その後の利用調整をスムーズにできなかった。

### 17. デイサービスセンターシルバードームいきいきの郷 (第1号通所)

パソコン・タブレット導入により記録業務の効率化を進めつつ、更なる改善に向けた検討を継続しているほか、「食」をテーマとした行事を季節ごとに実施し、その取組を広報誌で発信した。利用提案等を継続しているものの定期枠の充足には至っていなかったが、3月以降は新規問い合わせの増加により改善の兆しも見られる。

提供目標と実績 (定員18名)

目標 年間延べ4, 620人 (14. 9人/日 稼働率83%)

実績 年間延べ4, 338人 (14. 0人/日 稼働率77. 5%)

<要因>

入院者やショートステイ利用者の増加、入所移行等の影響も多く、目標には届かなかった。冬期間の利用者確保について課題があり今後も検討していきたい。

### 18. 増田町居宅介護支援事業所

年間請求件数は前年度比で減少し、月平均102件にとどまり、目標の105件には未達となった。また、要介護3以上の重度利用者の割合が増加しており、支援の複雑化が進んでいる。地域における高齢化率の高止まりと人口減少により、今後の利用者数の大幅な増加は見込みにくい。

引き続き採用・人員管理に取り組み、体制の安定と件数回復に努めていく。

提供目標と実績

目標 105件/月

実績 102件/月

<要因>

年度当初の3名体制において新規受入を一時停止した影響により、新規受入（月平均1.4件）は伸びず、終了件数（月平均2.2件）を下回る状況が継続した。

### 19. 増田町在宅介護支援センター

今年度より横手市地域包括支援センターとのランチ契約が再開され、行政窓口等からの相談が増加した。年間受付件数は63件となり、法人全体の相談対応時間の約3分の2を本センターが担った。

相談種別は介護相談・医療入院・各種申請代行が中心で、複合的な課題への対応が多かった。訪問相談も15件実施し、アウトリーチ機能の発揮が確認できた。

一方、機能の周知が十分でない場面もあり、情報発信体制の整備が引き続き課題である。今後は関係機関との連携をさらに強化し、孤立世帯等の潜在的ニーズの把握と相談支援機能の維持・強化に努めていく。

### 20. 特別養護老人ホームすこやか館合

ショートステイとの連携により目標の利用率を達成することができた。次年度に向け、居宅事業所や病院等関係機関との連携を密に行い積極的に情報収集しながら調整を進めていきたい。

感染症対策について、ユニットケアの特性を活かし迅速な対応により早期に終息することができたが、初動の遅れ等課題を残した。それに関連して職員個々の対応力や技能差の問題、また業務効率化について課題も多く、改善に向け次年度は職員間の技術の差を平準化し、ご入居者の安心、安全につながる生活環境の提供を目指していきたい。

地域交流に関しても、地域の方々との交流をさらに充実できるよう関係を構築し、活動の場を広げていきたい。

#### 提供目標と実績

目標 年間延べ 10,051人（27.5人/日 利用率 95.0%）

実績 年間延べ 10,255人（28.1人/日 利用率 96.6%）

<要因>

ショートステイとの連携からスムーズな入所調整ができたが、年度末の退所が続き、待機者側と施設側と条件面で合わず入所に結びつかないケースが多く調整が難航した。また現場のスキル不足から多様なニーズに対応できないケースもあり、今後の課題となる。

### 21. ショートステイすこやか館合

前年度から職員体制が薄い中で、他部署多職種との連携も行いながら一定のサービス提供は行えた。しかし、2月に館内でコロナ罹患者が数名出たことで稼働が落ち込むなど目標は達成できず課題が残った。職員の質の向上がサービスの質も向上させ、利用や新規契約に繋げていけるよう早急に取り組んでいく必要がある。また、利用調整においては今以上に定期利用者を増やすことで目標を達成できるよう行っていく。

#### 提供目標と実績（20名）

目標 年間延べ6,570人（18.0人/日 利用率90.0%）

実績 年間延べ6,383人（17.5人/日 利用率87.2%）

<要因>

昨年に引き続き積極的な営業、受け入れは行ったが、長期利用者の施設入所や入院に伴う空床に対して、利用調整に時間を要してしまい稼働を伸ばすことができなかった。

### 22. 小規模多機能型居宅介護事業所すこやか館合（介護予防）

基本方針「楽しく、優しく、すこやかに」を職員信条として、目標である「安心できる地域生活の実現」に努めた。

重点課題「利用者の生活に影響を及ぼす感染症に対し、“持ち込まない”“拡げない”を重点的に感染予防対策する」については、ご利用者、ご家族にも感染対策を理解、協力をしていただき、行事の日程を分ける等の工夫を行った。

提供目標と実績（登録定員25人）

目標 月間登録者数 15.0人（利用率 60.0%）

実績 月間登録者数 15.1人（利用率 60.4%）

<要因>

- ・令和7年度は上半期に68%前後で推移していたが入院者が昨年度の4、5倍と増加し登録解除となった事、また認知症により在宅生活継続困難によりグループホームへ入所となったケースもあり大きく稼働率が減少した。
- ・新規相談は2件あり2件とも利用に繋がったが相談自体の件数が少なかった
- ・西部地区の通所系サービスは概ね空きがある。通所系サービスの需要が少ない

### 2.3. 児童発達支援事業「モモの家」

令和7年度の在籍児童数は54名で、内訳は6歳児18名、5歳児18名、4歳児9名、3歳児8名、2歳児1名であった。新入園児は13名で、昨年度より5名少なかった。児童発達支援を行う他事業所の増加や利用者のニーズの変化（保護者同伴の親子通園よりも、子どものみの通園形態のニーズが高い）もあり、利用実績を伸ばすための対応策として、急な欠席を見越して日々の受け入れ児童数を多めに設定することや、個別指導については希望日時への柔軟な対応など対策も講じてきたが、目立った利用率向上には至っておらず、年間の利用実績は目標値には達しなかった。

児童及び保護者支援については、個々のケースに合わせたきめ細やかな対応を目指し、職員間での情報共有や話し合いを密にし、必要に応じて関係機関と連携を取りながら、支援の質の維持を図ってきた。個別支援計画の作成では、保護者の願いを十分に汲み取りながらも、児童の発達段階や特性といった実態に沿った計画となるよう、職員間での支援会議を重視してきた。併せて、児童発達支援センターへの移行準備として保護者アンケートを実施し、通園形態や土曜日開所の希望等についてニーズの把握を行い、令和8年度の体制に反映させている。

<提供目標と実績（定員10名）>

目標 年間延べ 1,687人（7.0人/日 利用率70.0%）

実績 年間延べ 1,233人（5.12人/日 利用率51.20%）

### 2.4. 県南愛児園ドリームハウス

令和7年4月、国が進めている児童養護施設の小規模化・地域分散化、高機能多機能化事業の工事が完了し、当園は大舎制の施設から大きく変化した。

本体施設では、地域のニーズに応えられるような施設環境を整備し、ショートステイ・一時保護の受入れの強化を図り、利用実績を伸ばすことができた。入所児童の生活においては、分園型小規模グループケア5棟、地域小規模児童養護施設1棟、合計6棟の家で分園25名、地域小規模児童養護施設5名、合計30名でスタートした。子どもたちもそれぞれの新しい家で楽しく生活することができた。生活拠点が分かれたことで個々の支援に苦慮した場面もあったが、個々のニーズを把握し職員全員でサポートし、秋休み以降はそれぞれ目標を見つけ安心安全な施設生活に移行することができた。また年度内に2名の家庭復帰も達成することができ、年度末には1名が進学、3名が就職し、それぞれ自分が希望する道に進むことができた。

小規模化・地域分散化に伴って人材確保に重点を置き、ここ数年で職員数が20名ほど増えている。職員の平均勤続年数が10年未満、平均年齢が30歳前半と若いため、園内研修、外部派遣研修、OJT等に注力し、職員の支援力の強化と、育成定着を図ることができた。

### 2.5. 横手市サンハイム

令和7年度は、6世帯17名でスタートした。5月上旬に横手市より廃止について説明があり、入所していた6世帯はそれぞれ子ども達の卒入学の節目や環境に慣れること等考慮して、地域で安心、安全な自立した生活に向けて動き始めた。職員は、一緒に物件探しをしつつ公的関係機関はもとより民生委員や町内会長さんなど関係構築を手伝うなど退所に向けた支援を行ってきた。10月下旬には、無事に全世帯退所することが出来た。退所世帯のほとんどが旧市内などで新生活をスタートさせたため、退所後も月1回「サンハイムレストラン」と称し食事を提供しながら生活状況の情報を得るなどしてアフターケアを行ってきた。実家に帰るような感覚で食事を楽しみにしている様子が伺えた。

3月の閉所式には、地域の方、退所した方々、元職員など70名を超える方々が参加してくれた。久しぶりの再会を喜んだりサンハイムで生活していた頃を懐かしんだりしながら最後の節目を一緒に迎えることが出来た。

今後は、地域で生活するサンハイムの退所者を含めたひとり親家庭の家事、育児、健康面の不安など生活する中で直面する諸問題の解決や子ども達の精神的安定を図るなど、これまで培ってきた支援のノウハウを生かしながら、新たな支援事業に移行して支援していきたい。

## 26. 障害者支援施設「ひまわり社」

生活介護・就労継続支援B型では、今年度退所する利用者はいなかったが、感染症等罹患により欠席される方が複数名・長期で発生した他、強い拘り等により通所へ全く気持ちの向かない利用者もおり、利用率に影響した。生産活動の基幹作業であるポリパックにおいて、一時期難易度の高い製品の依頼しか来ず、生産性が激減。さらには、障害支援区分が低くても支援を要する利用者も多くなかなか成果が出ず、工賃アップにはつながらなかった。目標工賃達成指導員を配置したものの他職員の休職退職に伴い、職員配置上、2か月で廃止せざるを得ない状況となった。

相談支援事業では、令和8年度に就学される児童発達支援を利用されている方の放課後等デイサービス希望者が例年より多かった。高齢期に入る30代利用者の親や家族では、将来的にグループホームを希望されている方が多い。

提供目標と実績（定員20名）

生活介護	目標	年間延べ	1,652人（稼働率85.0%）
	実績	年間延べ	1,606人（稼働率82.59%）
就労継続支援	目標	年間延べ	2,478人（稼働率85.0%）
	実績	年間延べ	2,211人（稼働率75.75%）
地域生活支援	目標	50.0件/月	
	実績	32.4件/月	
相談支援	目標	28.0件/月	
	実績	15.7件/月	

<要因>

生活介護ならびに就労継続支援では、感染症等罹患や心身の状態により欠席するケースが多くあり、利用率が低下した。地域生活支援では、放課後等デイサービス事業所の拡充により日中一時支援事業を希望する支援学校生が減少している。相談支援では、月によって件数にばらつきがありトータルとして例年より実績が下がった。また、短時間の相談支援専門員を配置予定であったが、配置ができず目標値を下回った。

### 【資料内の用語について】

#### ※インシデント報告

**事故** 県および市に報告したもの。（例：転倒してケガをしたために、報告した。）

**インシデント** 何らかの事象が生じたもの。（例：転倒したが、ケガはなかった。）

<この場合でも状況に応じて報告したものは、事故に区分>

**ヒヤリ・ハット** 何らかの事象が生じそうになり、ヒヤリ・ハットしたもの。

## 施設別利用実績

区分	施設	定員	利用率目標 (%)	年間延利用数 (人)	1日平均 (人)	利用率 (%)
特養	すこやか横手	50	95.0	16,905	46.3	92.4
	すこやか大雄	50	95.0	17,106	46.9	93.5
	すこやか森の家	30	95.0	10,015	27.4	91.2
	いきいきの郷	50	95.0	17,524	48.0	95.8
	すこやか館合	29	95.0	10,255	28.1	96.6
計		209		71,805	196.74	93.9
ショートステイ	すこやか横手	20	90.0	4,544	12.5	62.1
	すこやか大雄	10	100.0	3,067	8.4	83.8
	すこやか森の家	20	90.0	5,331	14.6	72.8
	いきいきの郷	11	90.0	3,368	9.2	83.7
	すこやか館合	20	80.0	6,383	17.5	87.2
計		81		22,693	62.18	77.9
デイサービス	すこやか横手	18	80.0	4,653	14.9	82.3
	すこやか森の家	25	55.0	3,513	9.6	38.4
	いきいきの郷	18	83.0	4,338	14.0	77.5
計		61		12,504	38.48	66.1

## 資料1 すこやか横手

### 特別養護老人ホーム

#### 1. 年齢階層（令和8年3月31日現在）

平均：男性 87.6 歳 女性 87.9 歳

	～64 歳	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90～94 歳	95～99 歳	100～歳	合計
男	0	0	0	1	2	0	2	2	0	7
女	1	0	2	1	5	13	15	4	1	42
合計	1	0	2	2	7	13	17	6	1	49

#### 2. 入居期間別状況（令和8年3月31日現在）

	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5年～	合計
男	2	4	1	0	0	1	8
女	11	8	7	7	4	4	41
合計	13	12	8	7	4	5	49

#### 3. 要介護度（令和8年3月31日現在） 平均 4.09

	1	2	3	4	5	合計
男	0	0	2	4	2	8
女	0	0	7	22	12	41
合計	0	0	5	30	14	49

#### 4. 退居理由（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

	在宅復帰	死亡	長期入院	合計
男	0	1	0	1
女	0	12	0	12
合計	0	13	0	13

#### 5. インシデント年間集計（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

##### 分類別報告数

事故	インシデント	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
15	61	28	1	0	0	105

##### 発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
21	11	3	10	2	0	44	3	0	0	10

##### 苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
1	0	0	0	0

## ショートステイ

### 1. 延べ人数及び介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数	458	459	455	517	499	469	475	430	474	433	443	328	5440
平均介護度	3.1	3.1	3.1	3.1	3.2	3.1	3.2	3.3	3.2	3.1	3.0	3.0	3.1

### 2. インシデント年間集計（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

#### 分類別報告数

事故	インシデント	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
4	25	12	1	0	0	41

#### 発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
16	3	0	5	0	0	6	4	0	0	7

#### 苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
1	0	0	0	0

## ケアハウス

### 1. 入居・退去状況

#### ① 平均在籍期間（令和8年3月31日現在）

在籍年数	1～6ヶ月	1～2年	3～4年	4～5年	6～7年	8～9年	10年～	平均
人数	3	5	3	1	2	0	0	3.0年

#### ② 年度内在籍数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延人数
男	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	50
女	10	10	11	11	11	11	10	11	11	11	11	11	129
計	15	15	15	15	15	15	14	15	15	15	15	15	179

## 老人介護支援センター

### 1. 相談件数 種別

#### (1) 相談件数

重複あり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談	3	3	1	3	2	1	2	2	0	1	0	2	20
継続相談	4	2	1	2	2	1	3	2	2	0	2	1	22

#### (2) 相談経路

重複あり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問	2	1	0	2	2	2	1	0	0	0	0	1	11
電話	4	3	0	2	2	0	2	4	0	0	1	1	19
来所	1	1	2	1	0	0	2	0	2	1	1	1	12

## (3) 相談種別

重複あり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護相談	7	5	0	5	2	2	3	0	0	1	0	2	27
福祉事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療・入院	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
施設入所	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
各種申請代行	0	2	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	5
あんしんバトン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知症	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6
高齢者虐待	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
その他	0	0	2	0	0	0	2	2	2	0	2	0	10

## 居宅介護支援センター

## 1. ケアプラン介護度別保険請求及び予防プラン・認定調査件数

介護度	%	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	38.7	27	27	28	26	27	28	29	30	32	32	28	30	344
2	29.7	26	25	24	24	24	21	22	20	20	20	20	18	264
3	15.9	12	13	12	14	12	12	11	11	11	10	12	12	142
4	8.3	5	5	5	5	5	6	7	6	8	7	8	7	74
5	7.4	5	4	4	5	5	5	5	4	8	8	7	6	66
合計	100	76	74	73	74	73	72	73	71	78	77	75	73	889

## (予防プラン・認定調査件数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防	件数	13.5	13.5	13.5	14.5	15.5	15	15.5	16	15.5	16	15.5	15.5	179.5
認定調査	在宅	4	3	3	3	5	1	2	3	4	2	3	2	35
	施設	0	2	3	1	4	3	4	2	0	2	2	3	26
	合計件数	4	5	6	4	9	4	6	5	4	4	5	5	61

## デイサービス

## 1. 延べ人数及び平均介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延人数	339	386	377	410	385	399	422	400	399	376	361	399	4635
平均介護度	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.1	2.2	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3	2.32

## 2. インシデント年間集計 (令和7年4月1日～令和8年3月31日)

## 分類別報告数

事故	インシデント	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
1	11	7	2	0	0	21

## 発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬等	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
1	1	0	0	0	1	5	0	0	0	11

## 苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
2	0	0	0	0

## 資料2 すこやか大雄

### 特別養護老人ホーム

#### 1. 年齢階層（令和8年3月31日現在）

平均：男性 89.5 歳 女性 87.0 歳

	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100～歳	合計
男	0	0	1	1	0	2	1	2	0	7
女	0	0	3	4	6	6	14	5	0	38
合計	0	0	4	5	6	8	15	7	0	45

#### 2. 入居期間別状況（令和8年3月31日現在）

	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5年～	合計
男	1	1	0	2	0	3	7
女	13	4	1	4	5	11	38
合計	14	5	1	6	5	14	45

#### 3. 要介護度（令和8年3月31日現在） 平均 4.40

	1	2	3	4	5	合計
男	0	0	0	5	2	7
女	0	0	3	16	19	38
合計	0	0	3	21	21	45

#### 4. 退居理由（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

	在宅復帰	死亡	長期入院	合計
男	0	5	0	5
女	0	13	1	14
合計	0	18	1	19

#### 5. インシデント年間集計（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

##### 分類別報告数

事故	インシデント	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
13	50	8	1	0	0	72

##### 発生内容

転倒等	服薬 飲み 飲忘 誤薬	車椅子 より 転落 等	ベッド より 転 落等	経管 栄養 管外 れ抜 去等	食事形 態確認 ミス異 食等	外傷 打撲 骨折 等	設備 管理 不備 等	移乗 移動 介助 ミス	その 他介 助ミ ス等	対応 提供 ミス	紛失 盗難	その 他
5	3	2	6	6	5	16	8	2	1	7	1	9

##### 苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
1	0	0	0	0

## ショートステイ

### 1. 延べ人数及び介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数	272	301	254	261	239	272	278	206	248	322	271	143	3067
平均介護度	3.02	3.02	2.78	2.93	2.71	2.74	2.85	2.80	2.73	3.03	2.90	2.56	2.84

### 2. インシデント年間集計（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

#### 分類別報告数

事故	インシデント	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
0	14	12	0	0	0	26

#### 発生内容

転倒等	服薬 飲み 飲忘 誤薬	車椅子 より 転落 等	ベッド より 転落 等	経管 栄養 管外 れ抜 去等	食事形 態確認 ミス異 食等	外傷 打撲 骨折 等	徘徊 無断 外出 等	移乗 移動 介助 ミス	対応 提供 ミス	紛失 盗難	忘れ 物	その他
5	3	2	1	0	1	0	1	0	2	0	6	5

#### 苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
0	0	0	0	0

## 老人介護支援センター

### 1. 相談件数 種別

#### (1) 相談件数

重複あり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談	2	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	7
継続相談	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	4

#### (2) 相談経路

重複あり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
電話	1	2	2	0	0	2	0	0	0	1	0	0	8
来所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

#### (3) 相談種別

重複あり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護相談	2	2	2	1	1	1	0	0	0	1	0	0	10
福祉事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療・入院	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
施設入所	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
各種申請代行	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
あんしんバトン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高齢者虐待	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 居宅介護支援センター

### 1. ケアプラン介護度別保険請求及び予防プラン・認定調査件数

介護度	%	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	23.9	13	14	14	15	16	17	15	16	16	16	16	15	183
2	30.4	19	20	21	20	19	18	22	21	20	17	18	18	233
3	23.1	17	15	15	14	14	15	15	13	14	14	15	16	177
4	10.3	5	8	4	7	5	6	7	9	7	7	6	8	79
5	12.4	6	10	8	8	8	11	9	8	8	6	7	6	95
合計	100.0	60	67	62	64	62	67	68	67	65	60	62	63	767

#### (予防プラン・認定調査件数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防	件数	13	16	15	14	12	13	14	14	14	15	14	15	169
認定調査	在宅	2	3	4	4	1	2	3	2	2	2	4	0	29
	施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	合計件数	2	3	4	4	1	2	3	2	2	2	4	1	30

## 資料3 すこやか森の家

### 特別養護老人ホーム

#### 1. 年齢階層 (令和8年3月31日現在)

平均 : 男性 79.5 歳 女性 89.9 歳

	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100～歳	合計
男	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
女	0	1	0	1	3	8	7	5	2	27
合計	0	1	1	1	3	9	7	5	2	29

#### 2. 入居期間別状況 (令和8年3月31日現在)

	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5年～	合計
男	0	1	0	1	0	0	2
女	9	3	3	1	2	9	27
合計	9	4	3	2	2	9	29

#### 3. 要介護度 (令和8年3月31日現在) 平均 4.10

	1	2	3	4	5	合計
男	0	0	0	1	1	2
女	1	0	2	17	7	27
合計	1	0	2	18	8	29

#### 4. 退居理由 (令和7年4月1日～令和8年3月31日)

	在宅復帰	死亡	長期入院	合計
男	0	2	0	2
女	0	8	0	8
合計	0	10	0	10

5. インシデント年間集計（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

分類別報告数

事故	インシデント	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
5	41	12	4	0	0	62

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
2	6	2	2	6	4	6	0	3	2	25

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
4	0	0	0	0

ショートステイ

1. 延べ人数及び介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数	367	399	390	423	476	420	430	424	488	490	493	531	5331
平均介護度	2.79	2.70	2.76	2.97	2.91	2.83	2.93	3.14	3.13	3.16	3.03	3.03	2.95

2. インシデント年間集計（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

分類別報告数

事故	インシデント	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
4	63	3	5	0	0	75

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
2	4	0	0	0	5	3	2	5	2	48

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
4	0	0	0	0

デイサービス

1. 延べ人数及び平均介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数	307	333	293	287	278	318	316	310	329	281	183	278	3,513
平均介護度	2.19	2.25	2.18	2.10	2.05	2.18	2.21	2.25	2.3	2.28	2.29	2.29	2.21

2. インシデント年間集計（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

分類別報告数

事故	インシデント	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
10	25	3	3	0	0	41

発生内容

転倒等	服薬飲 み忘れ 誤薬等	車椅子 より 転落等	ベッド より 転落等	経管栄 養管外 れ 抜去等	食事形 態確認 ミス異 食等	外傷 打撲 骨折等	徘徊 無断 外出等	設備 管理 不備等	移乗移 動介助 ミス	その他 介助 ミス等
2	0	1	0	0	6	7	0	3	0	18

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
3	0	0	0	0

資料4 シルバードームいきいきの郷

特別養護老人ホーム

1. 年齢階層（令和8年3月31日現在）

平均：男性 85.2 歳 女性 89.3 歳

	～64 歳	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90～94 歳	95～99 歳	100～歳	合計
男	0	0	1	1	1	3	3	0	0	9
女	0	0	2	2	2	8	8	8	3	33
合計	0	0	3	3	3	11	11	8	3	42

2. 入居期間別状況（令和8年3月31日現在）

	～1 年	1～2 年	2～3 年	3～4 年	4～5 年	5 年～	合計
男	4	2	1	1	0	1	9
女	3	11	5	4	2	8	33
合計	7	13	6	5	2	9	42

3. 要介護度（令和8年3月31日現在） 平均 4.54

	1	2	3	4	5	合計
男	0	0	1	3	5	9
女	0	0	1	12	20	33
合計	0	0	2	15	25	42

4. 退居理由（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

	在宅復帰	死亡	長期入院	合計
男	0	4	0	4
女	0	13	0	13
合計	0	17	0	17

5. インシデント年間集計（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

分類別報告数

事故	インシデント	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
5	90	23	1	0	0	119

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ 誤薬	車椅子 より 転落等	ベッド より 転落等	経管栄養 管外 れ 抜去等	食事形 態確認 ミス異 食等	外傷 打撲 骨折等	徘徊 無断 外出等	設備 管理 不備等	移乗移 動介助 ミス	その他 介助 ミス等
11	1	9	14	5	4	61	0	0	0	13

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
1	0	0	0	0

ショートステイ

1. 延べ人数及び介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延人数	289	310	306	319	288	290	297	280	281	320	160	236	3376
平均介護度	3.6	3.6	3.5	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.4	3.2	3.6

2. インシデント年間集計（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

分類別報告数

事故	インシデント	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
0	38	10	1	0	0	49

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ 誤薬	車椅子 より 転落等	ベッド より 転落等	経管栄養 管外 れ 抜去 等	食事形 態確認 ミス異 食等	外傷 打撲 骨折等	徘徊 無断 外出等	設備 管理 不備等	移乗移 動介助 ミス	その他 介助 ミス等
9	0	1	4	1	1	17	0	0	0	15

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
1	0	0	0	0

デイサービス

1. 延べ人数及び平均介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延人数	341	383	373	408	395	395	376	320	332	286	301	304	4,214
平均介護度	2.3	2.4	2.5	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.5	2.6	2.5	2.5

2. インシデント年間集計（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

分類別報告数

事故	インシデント	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
0	27	31	0	0	0	58

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ 誤薬等	車椅子 より 転落等	ベッド より 転落等	経管栄養 管外 れ 抜去 等	食事形 態確認 ミス異 食等	外傷 打撲 骨折等	徘徊 無断 外出等	設備 管理 不備等	移乗移 動介助 ミス	その他 介助 ミス等
10	2	2	2	0	2	15	0	0	0	25

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
0	0	0	0	0

居宅介護支援センター

1. ケアプラン介護度別保険請求及び予防プラン・認定調査件数

介護度	%	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	14.4%	16	16	15	14	13	14	13	11	11	10	11	12	156
2	37.5%	40	40	38	38	36	35	35	31	31	30	28	26	408
3	27.3%	23	23	25	24	26	24	25	25	24	26	26	26	297
4	12.8%	13	14	10	13	11	10	11	10	10	11	12	14	139
5	8.0%	5	4	6	8	10	8	9	9	9	6	6	7	87
合計	100%	97	97	94	97	96	91	93	86	85	83	83	85	1087

(予防プラン・認定調査件数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防	件数	18	19	18	17	17	17	16	16	16	18	18	19	209
認定調査	在宅	6	10	6	5	6	5	5	8	6	6	6	6	75
	施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計件数	6	10	6	5	6	5	5	8	6	6	6	6	75

老人介護支援センター

1. 相談件数 種別

(1) 相談件数

重複あり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談	3	1	1	3	3	2	0	2	5	2	1	3	26
継続相談	3	7	1	4	2	3	0	1	4	7	1	4	37

(2) 相談経路

重複あり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問	2	1	1	1	1	2	0	1	4	4	1	2	20
電話	4	6	1	6	2	3	0	1	3	4	1	5	36
来所	0	1	0	0	2	0	0	1	2	1	0	0	7

(3) 相談種別

重複あり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護相談	5	8	2	5	4	5	0	2	8	7	2	5	53
福祉事業	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	1	0	5
医療・入院	0	0	0	3	4	0	0	2	1	1	0	2	13
施設入所	1	1	0	1	2	0	0	2	0	5	0	0	12
各種申請代行	4	0	0	0	0	3	0	2	1	0	0	2	12
あんしんバトン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知症	1	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	7
高齢者虐待	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	2	0	5	1	0	0	1	2	2	2	6	22

## 資料5 すこやか館合

### 特別養護老人ホーム

#### 1. 年齢階層（令和8年3月31日現在）

平均：男性 86.5 歳 女性 91.0 歳

	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100～歳	合計
男	0	0	0	1	1	0	2	0	0	4
女	0	0	0	0	1	7	10	4	1	23
合計	0	0	0	1	2	7	12	4	1	27

#### 2. 入居期間別状況（令和8年3月31日現在）

	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5年～	合計
男	0	0	1	3	0	0	4
女	4	5	6	2	1	5	23
合計	4	5	7	5	1	5	27

#### 3. 要介護度（令和8年3月31日現在） 平均 3.90

	1	2	3	4	5	合計
男	0	0	0	4	0	4
女	0	1	6	11	5	23
合計	0	1	6	15	5	27

#### 3. 退居理由（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

	在宅復帰	死亡	長期入院	合計
男	0	0	0	0
女	0	4	0	4
合計	0	4	0	4

#### 5. インシデント年間集計（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

##### 分類別報告数

事故	インシデント	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
0	37	14	0	0	0	51

##### 発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
0	5	4	1	0	0	16	0	3	0	8

##### 苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
0	1	0	0	0

## ショートステイ

### 1. 延べ人数及び介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延人数	518	503	512	567	564	550	554	543	549	549	394	580	6,383
平均介護度	2.92	2.69	2.76	2.86	2.96	2.88	2.96	3.05	2.86	2.93	2.96	2.95	2.90

### 2. インシデント年間集計（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

#### 分類別報告数

事故	インシデント	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
2	59	2	1	0	0	64

#### 発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
16	4	2	5	—	3	8	1	0	0	22

#### 苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
1	0	0	0	0

## 小規模多機能型居宅介護

### 1. サービス利用状況

#### 利用実績内訳（介護給付）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通い	309	306	267	312	318	308	367	320	333	276	243	260	3619
泊り	145	171	155	148	146	143	170	145	147	124	121	140	1755
訪問	10	14	12	14	9	0	0	0	0	0	0	0	59

#### 利用実績内訳（介護予防）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通い	38	40	38	42	38	40	27	24	31	30	28	30	406
泊り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4	16

### 2. インシデント年間集計（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

#### 分類別報告数

事故	インシデント	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
0	8	1	0	0	0	9

#### 発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
6	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1

#### 苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
0	0	0	0	0

## 資料6 児童発達支援事業「モモの家」

### 1. 入退園状況（令和8年3月31日現在）（単位：人）

区分 性別	本年度入園 児童数	本年度卒退園児童数				計	次年度 へ移る
		普通	特学	支援学校	その他		
男	44	4	8	4	1	17	27
女	10	0	1	1	1	3	7
計	54	4	9	5	2	20	34

### 2. 年齢別表（令和8年3月31日現在）（単位：人）

年齢 人数	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	その他	合計
合計	0	0	1	8	9	18	18	0	54

### 4. 月別通園状況（令和8年3月31日現在）（単位：人）

月別 内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通園延べ人数	94	103	93	118	108	98	95	100	104	111	110	99	1233
療育日数	21	20	21	22	20	20	22	18	19	19	18	21	241
平均人数	4.48	5.15	4.43	5.36	5.40	4.90	4.32	5.56	5.47	5.84	6.11	4.71	5.12

### 5. 障害の種別（令和8年3月31日現在）（単位：人）

障害別 性別	身体障害 者手帳有	診断名有 (知的障害)	診断名有 (自閉症・パニック・注意欠陥多動障害等)	診断名有 (ダウン症・てんかん等)	その他	合計
男	0	12	4	3	25	44
女	0	3	0	1	6	10
合計	0	15	4	4	31	54

## 資料7 県南愛児園「ドリームハウス」

### 1. 在籍状況（毎月1日現在）

本園

（単位：人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
25	25	26	27	26	27	29	30	30	30	30	30

（平均 27.9人/月 利用率93.1%）

分園（地域小規模児童養護施設きずな）

（単位：人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
5	5	5	5	5	5	4	4	5	5	5	5

（平均 4.8人/月 利用率79.6%）

### 2. 短期利用等状況（一時保護、ショートステイ）（月延べ人数実績）

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
ショートステイ	0	0	0	20	5	10	0	0	0	15	10	6	66
一時保護	30	29	0	56	26	13	31	25	55	0	0	45	310
レスパイト	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	1	5

3. 出身地別 (単位：人)

横手市	秋田市	仙北市	大仙市	湯沢市	潟上市	美郷町	合計
12	3	2	10	3	1	4	35

4. 学年別 (単位：人)

	幼児	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	計
男子	2	0	0	0	3	0	0	1	1	1	0	1	3	12
女子	1	0	1	2	2	0	3	0	8	0	5	0	1	23
計	3	0	1	2	5	0	3	1	9	1	5	1	4	35

資料8 横手市サンハイム

1. 入退所及び一時保護の状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所	世帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	世帯	0	0	1	1	2	0	2	0	0	0	2	2	6
	人数	0	0	2	2	7	0	6	0	0	0	5	7	11
1日 在籍	世帯	6	6	6	5	4	2	2	0	0	0	0	0	31
	児童	11	11	11	10	9	4	4	0	0	0	0	0	60
	合計	17	17	17	15	13	6	6	0	0	0	0	0	91
一時 保護	世帯	1	2	2	1	0	0	0	0	0				4
	同伴者	2	0	0	0	0	0	0	0	0				2
	日数	10	8	13	11	0	0	0	0	0				42

2. 措置機関別世帯数

地域別	横手市	羽後町	秋田市	広域	合計
世帯数	3	1	1	1	6世帯
子どもの数	6	2	1	2	11人

3. 世帯構成数

子ども	幼児	小学生	中学生	高校生	合計
人数	1	4	4	2	11人

4. 退所理由

自立	再婚等	本人の意思	その他	合計
1	3	1	1	6世帯

5. 退去先

子どもの学区内	横手市内 (子どもの学区外)	他市町村	合計
4	1	1	6世帯

6. インシデント

苦情件数	意見	その他	ヒヤリハット	インシデント	苦情件数
1	2	0	1	0件	1

資料9 障害者支援施設「ひまわり社」

1. 利用者延人数 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活介護	138	137	146	145	123	138	138	124	150	126	109	132	1606
就労B	188	180	200	205	167	189	205	171	197	172	155	182	2211

利用者数 (人)

性別	男性	女性	合計
生活介護	8	2	10
就労B	8	3	11

3. 障がい種別 (人) 重複あり

	知的	身体	精神	合計
生活介護	10	2	1	13
就労B	10	2	0	12

4. 障がい程度区分

区分	1	2	3	4	5	6	平均区分
生活介護	0	0	0	5	3	2	4.7
就労B	—	0	2	2	—	—	3.5

5. 日中一時支援事業 利用者延人数 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日中一時支援	30	31	36	38	24	45	35	27	39	31	29	24	389

6. 相談支援事業利用者件数 (新規・モニタリングを含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談支援 (計画・見)	35	8	29	9	13	21	10	16	14	12	9	12	188

7. インシデント年間集計 (R7. 4. 1~R8. 3. 31)

	ヒヤリ・ハット	インシデント	事故	苦情・不満	意見	その他	合計
件数 (件)	15	1	2	1	0	1	20